

## 第4学年国語科

### 「ここがクライマックス！山場の一文で本を紹介しよう～『走れ』～」

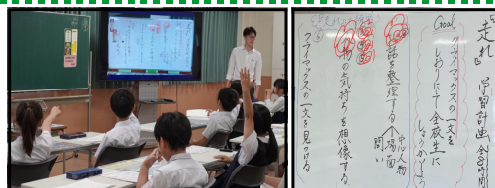
学習指導者 岡根 平

#### 単元の概要

前学年で物語を紹介してきた経験を想起した後、クライマックス（中心人物の気持ちが一番大きく変化した瞬間）の一文だけを書いた教師作成のしおりを見ることで、これまでとは違った形の紹介への意欲を高め、クライマックスの一文で本を紹介するという目標を設定した。その後、目標の達成に向けて、複数の叙述を結び付けながら中心人物の気持ちがどのように変化したか想像していった。

#### 課題設定

本時の初めには、前時を振り返り、これまでに分かったことを確認した。そして、学習計画を基にこれまでに解決したこととまだ解決していないことを捉え、今日取り組むべきことを見付け課題として設定した。



#### クライマックスの一文を見付けよう

#### 解決の見通し

「学習課題が決まった後はどうしますか」と問いかけ、「**取り組むことと、その順番を決める**」という方法を想起し、どのような学習形態でどれぐらいの時間取り組むかを決めていった。その際、ペアの友達と互いの計画を見直す場を設けることで、話し合いながら計画が妥当か確かめる姿が見られた。また、これまでの学習を基に、クライマックスを探す場面や、その時に着目すべき視点（「前の場面と比べる」「複数の言葉をつなげる」など）はどれかについても見通しをもち、課題解決に向かっていった。



#### 解決

クライマックスだと思う一文を選んだ後は、選んだ文に名前磁石を貼り、友達の考えを一覧できるようにしたことで、目的意識をもって友達と関わりながら、叙述を基にクライマックスの一文を吟味する姿が見られた。また、全体交流では、教師が「二人の応援でないとのぶよの気持ちは変わらなかったのだろうか」などとゆさぶることで、のぶよにとって二人から応援されることの意味を捉え、場面の移り変わり結び付けながら、気持ちの変化を具体的に想像する姿が見られた。



私は②の文だと思ったよ。「ぎゅん」という勢いがあるような感じが、これまでの「体が重い」と違うね。

二人の応援がきっかけだね。なぜこの応援で気持ちが変わったのかな。

#### 振り返り

課題解決後は、本時使えた学び方について振り返った。これまでに、見通し場面で用いた学び方カードを使い、今日使えたと思う学び方カードの裏に日付を書き込んでチェックすることを繰り返してきたことで、本時も自分から使えた学び方をチェックする姿が見られた。そして、本時の学習の成果を基に、残り時間を意識しながら次に取り組むべきことを考えていった。



#### 考察（○：成果、▲：課題）

- クライマックスの「一文」を見付けるという活動により、互いの意見の異同に目を向けながら、どの文が妥当か意欲的に議論する姿が見られた。その中で、人物の心情の変化を捉えることができていた。
- ▲ 「クライマックス」の定義の理解が不十分なため、結論付けることに難しさがあった。全体交流では「クライマックスだと思う一文とその理由」に絞って議論することで気持ちの変化により焦点化できた。

右のQRコードから、学習指導案や他の実践をご覧いただけます。

